

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p>			
<p>1. 理念と共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念として、「豊かな自然の中で、地域の人々の温もりに触れる懐かしい生活を送ります。」をあげ、地域行事への参加、地域の協力、参加を頂いている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念の共有はできているが、実践者としての、活動・工夫については項目内容により差がある。</p>	<p>管理者より、現状の評価を定期的に指示されているが、各項目の具体的な活動・工夫において検討、実践の場面づくりが必要。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族への浸透として、月に一度、お便りの送付請求書書式内に理念の記載を実施している。地域への浸透として、2ヶ月に1回、地域サービス運営推進会議を実施。年に2回、避難訓練のお知らせの際、近隣にお願いとお知らせを記載。施設内、玄関に理念の掲示実施。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
4	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>入居者の方の散歩時や、地域行事の参加、買物、理髪店の利用等で、地域の方と顔なじみの関係を形成。地域の方より、野菜のおすそ分けを頂いている。幼稚園の方の茶摘みの参加を頂いている。小学生の体験学習の場として利用頂いている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>隣保会に加入し盆踊り、秋祭り、等の地域行事に参加している。(但東町中心) 近隣の小学校の雑巾縫いを入居者の協力のもと行い配布している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	<p>現状、地域サービス運営推進会議を拠点とした情報 交流を実施に努めているが、具体的な窓口、担当 者の設置、広報、現状把握には至っていない。</p>	<p>窓口及び担当者を設置し、活動に繋がる情報収集 、交流を築く必要がある。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の公表及び各職員への連絡を実施。 指摘事項については、早急に検討、改善を実施。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の委員より、第三者から見た指摘 を頂いている。また、現状においての検討課題 について、ご意見を頂いている。</p>	<p>ホーム内の現状を委員の方に理解を深める活動が 必要。ボランティアの参加、会議資料の工夫、介 護職員の会議への参加。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者や運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括ケア会議の参加の実施。 地域の研修会の参加の実施。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る</p>	<p>管理者により、情報提供や相談時において説明 義務を果せる準備あり。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>現状において、虐待の報告はないが、虐待の定義 範囲を十分に理解し、検討される事は少ない。</p>	<p>虐待の定義の作成（マニュアル化） 作成に伴い、現状の見直しの実施。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面にて説明、同意を得ている。 相談や質問があった際、その都度説明を実施。	
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方のご意見、苦情、不満が上がった際、内容の緊急性により運営推進会議にかける。緊急性のある場合、事柄に応じ協力機関に相談するネットワークあり。	
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月ごとにお便りを送付し健康状態、ご様子、連絡事項等お伝えしている。その他、面会時や必要に応じて電話連絡などによる報告をしている。	
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者評価のアンケートや面会時での相談を頂いている。意見箱の設置（意見書の書式作成中）	
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者により、市内の運営に関する情報は報告されている。定期的な職員会議により検討している。	
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現状における要望に対し、職員間の連絡、意識も統一できている。急な要望にも対応できるよう努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来るだけ異動を少なくしている。 2ユニット間の職員が入所の方にとって顔なじみの機会をつくり、急な対応に備えている。 会議や書類により2ユニット間の情報交換を行っている。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	どの職員も何らかの研修を受けやすいよう、研修内容の提示、各職員に合う研修の紹介(管理者)をしている。経験者、資格取得者により勤務をしながら職員間で実践的に指導している。 研修等の参加実績において、個人差があり、これを補うべく、職員会議の際、研修報告を取り入れている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の運営している会議や研修先で意見交換等している。 近隣施設と協力施設としての契約を行っている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に行っている職員会議での意見交換や職員内での親睦会を実施。 個別に相談が必要な場合、管理者が相談を受ける。 個別相談の日程を現在調整中。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修や資格取得の為の情報公開及び参加への日程づくりに協力。 個々の努力や実績に対し、管理者は人事考課を導入。 Off-jtにおけるアドバイスを個々に入れ、向上心に繋げている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>随時、相談内容に対し説明を行い。初期のアセスメントをもとに、課題分析・ニーズの具現化に繋げている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>随時、相談内容に対し説明を行い。初期のアセスメントをもとに、課題分析・ニーズの具現化に繋げている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>随時、相談内容に対し説明を行い、初期のアセスメントをもとに、課題分析・ニーズの具現化に繋げている。また、他のサービスの利用が発生時（必要時・希望時）は、他機関との調節をしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用施設と在宅を行き来する期間を設け、入居者の方の負担を考慮した対応をご家族と相談の上、実施している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>その人らしさの尊重とはりあいの役割を大切とした理念のもとに、炊事、洗濯、掃除、特技等、日常において発揮していただく場面づくりに努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	その人らしさを追求する上で、第一の情報提供者であり、墓参り等の外出や帰省でご協力頂ける実践者としている。その必要性と効果の大切さは職員間において熟知しており、関係づくりに努めている。		
29 利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	クリアーな情報公開に努め、あまりご連絡・ご面会頂けないご家族には、こちらからお電話させて頂き、入居者の方とご家族の橋渡しを行っている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の中で、地域ならではの話題を取り入れ、回想法を大切にしている。 環境づくりにおいては、馴染みのある私物や家具を搬入頂けるようご家族の協力を得ている。 入居者の方の希望があれば、お手紙、電話等のお手伝いをさせて頂いている。 馴染みのある場所への外出の実施をしている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	家事やレクや外出等を通して、入居者同士で関わりが出来る場面づくりに努めている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	システム的な取り組みはないが、支えの一つとして相談される事もあり、定期的な季節の挨拶を行っている。現在野菜の頂き物など交流が続いているケースもある。		退所後の訪問実績がなく、検討が必要。 システム化や退所者への相談窓口としての紹介が必要。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式や個別のサービス計画書を作成、更新しその人らしさの暮らしが続けられるよう支援している。困難な事例の場合、ご家族の協力を得たり、ニーズの置き換えを入居者のご理解のもと実施している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご利用前の施設との引継ぎやご家族から情報提供を頂いている。何気ない会話の中で、ご本人から発せられた情報は、記録に残している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個別のサービス計画書内にてその方の価値観やリズム、出来る事、介助が必要になる事柄を挙げている。これをもとに、職員間の情報共有に努め、定期的に検討、更新している。</p>	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初期アセスメントや生活日誌等をもとに個別サービス計画書を職員会議を通し立案している。ご家族にもご理解、ご協力頂いている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>身体上の変化における対応において、申し送りの際、職員間のケアの統一を促しており、新たな計画が必要と判断される際、可能な限り再計画を立案している。その際、ご家族や必要関係者の連絡が必要な場合、説明と同意を頂いている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子を個別記録に残し、些細な情報を個別ノートに記録している。 その情報を職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設が無く、当事業所の機能で対応している。 よって環境の変化や職員の交代は最小限になっており、馴染みの関係に重視している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域サービス運営推進会議において、委員として参加を頂いている。また、消防署より防火指導を受けたり、ボランティアによる清掃活動、地域の文化展の見学、学校行事の協力等を実施している。		
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	情報収集の一つとして他のケアマネジャーやサービス事業者との電話での意見交換を実施している。 現状において、病院以外のサービスを利用する為の支援まで、至っていない。 (希望される方、必要とされるケースが無い為)		
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状、利用者や家族等の意向や必要性における地域包括センターの権利擁護は、必要というご意見があがっており、検討が必要となった際、協力を求める方針。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>近隣に協力医療機関と契約しており、ご家族やご本人の承諾のもと、定期的にご利用頂いている。また、ご家族やご本人の馴染みの病院がある際、その関係を大切にに対応している。</p>	
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>基本的に、ご家族やご本人の希望される医療機関に受診し連絡をとっている。特定された医療機関が指定されていない場合、必要に応じ当施設の特性をご理解頂いている病院の受診を行い、確定診断から状態に応じた処方等頂いている。その際、職員への対応のアドバイスも頂いている。</p>	
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>当施設に看護職員が2名配置されており、さらに、入居者の方の主治医が地域の医師であり、馴染みの関係から、気兼ねなく相談させて頂いている。</p>	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>主治医の判断により、入院が必要な時は、ご家族のご理解、ご協力を得ながら入院して頂く。その際、主治医による情報提供、介護サマリーの提示、緊急入院に備えた準備を行っている。</p>	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>主治医の指示のもと介護を行い、体調の変化があった際、連絡、受診を行っている。 当施設において、ターミナルケアを受け入れており、ご本人やご家族ならびに主治医の協議により介護提供を行う。</p>	<p>終末期のご家族の意向の確認については、契約書等での確認の必要性を感じているが、まだ整備できていない。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>職員が、入居者の身体状況と病状を理解する為、主治医の指示を得て介護を行う。介護提供に課題があった場合、速やかに主治医に相談する。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>49 住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>現状として、住み替え、在宅復帰の事例なし。入院時の対応として、定期的な面会と情報交換に努めている。</p>		<p>入院時のダメージについて、具体的なケアが形成されていない。検討必要</p>
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個々に合わせた話方、ペース、声の大きさはもちろんの事、話の内容によって場所を変え、プライバシーや人権に留意している。リビング等、人の行き来があるスペースにおいて、やもえず職員間の連絡が必要な際、実名を挙げず、他者に分からないよう配慮している。記録類は、指定場所にて管理。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個々に合わせ感情の表現に繋がる声掛け、きっかけづくりに努めている。オープンクエッション・クローズクエッションを状況に合わせて行い、ご本人のご意見・主体性を大切にする。身体・病状により、表出が困難な方には、表情やご家族のご意見やアセスメントをヒントに心境を伺う。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の都合が入居者の方の生活に影響しないよう、業務内容が流れ作業にならないよう、職員会議等で、意識確認し、記録、入浴、清掃等時間が固定されがちな業務をチームワークにより緩和している。これによりどの時間であってもその人らしい暮らしのお手伝いができるよう工夫に努めている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご本人の希望されるお店が無い場合、近隣のお店をご利用頂いている。身だしなみに関するサポートは行っているが、現状おしゃれを楽しむ場面づくりは、少ないと言える。</p>		<p>おしゃれをしたくなるきっかけづくりと、支援できる環境づくりと意識を持ち、職員も含みおしゃれをしていく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事状況やご本人のお言葉から、食事の趣向を確認。買物、皮むき、炒め物、味見、配膳、食器洗い等、の参加を頂いている。ご協力時、必ず感謝の言葉添える事を意識付けている。	
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、タバコは、医師やご家族のストップがない限り、自由としている。(喫煙所設置)おやつを自室に持っておられる方もある。コーヒーの希望される際、夜間を除きご準備させて頂いている。但し、体調が優れない状態、過度の摂取がある際ひかえて頂く事をお伝えしている。	
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	プライバシーや人権に留意し、介助にあたっている。個別の排泄状態、排泄表をチェックし、オムツ形態・誘導・投薬による排便調整を行っている。	
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる状態であり、夜間においても入浴可能な状態。家庭浴槽を使用し、マンツーマンの対応。入浴剤の使用、毎日の清掃を行っている。入浴時間は、汚染によりやむを得ず洗体が必要なケースを除き、主体性を大切にしている。	
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間も主体性を大切に行っている。但し、認知症の症状による不眠につながる不安、見当識がある際、時間や夜である事を分かりやすくお伝えする事がある。また、昼夜逆転や生活に影響がある状態であれば、医師への相談を行っている。(現在、睡眠薬・入眠誘導剤の投薬者なし)	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中で発揮できる役割を大切に支援にあたっているが、全ての方に、継続的にやりがいにつながる場面づくりに繋がっていないのが現状。楽しみごと、気晴らしについても豊富といえる程の方法・場面づくりが探せていないのが現状	成功例の蓄積が少なく、今後もあらゆることに挑戦していく。生活歴の情報収集とADL、IADLの情報を整理しそれをヒントに場面づくりに繋げていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、お金の管理が出来る出来ないに着目せず、ご希望がある際、所持頂いている。但し、所在の確認。紛失防止の為、定期的にさりげなくご確認させて頂いている。可能な方は、外出時、実費にて買物をして頂いている。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自主的な散歩は制限される事無く、自由に外出されている。職員も一緒に散歩に参加させて頂いたり、距離をおいて見守らせて頂いている。買物や気分転換を目的とした外出やイベント事は、定期的に場面づくりを行っている。しかし、その参加数において、偏りが発生しているのも現状。		偏りが発生してしまう事を無くすのではなく、少しでも戸外にでられるよう、日々の健康管理と外出内容の工夫に努める。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	マンツーマンによる外出は、偏りがあり、身体上及び職員配置による要因で困難な状況が発生している。ご家族との外出においても、ご家族が近くにいないという要因により、偏りがある。		まずは、月に一度、年に数回でもいいから、外出への機会をつくる。また、入居者ご本人も意欲的に参加頂けるよう、心身共に健康であるよう努める。計画を各担当職員が責務とし、施行していく。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	規制される事無く、支援しており、携帯電話を所持されておられる方もある。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所者の方が、気兼ねされないよう、事前連絡・面会簿の記入、名札の着用等、手続きが必要ないよう最小限に抑えている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定期間における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権擁護や身体拘束がないように、会議や現場にて管理者より、常に意識付けを行っている。現在、マニュアルの作成中		まずは、マニュアルを作成していく中で、現在の状況を確認し、検討課題を挙げていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>職員全員に浸透するよう職員会議で講習会をしていく。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>協力施設との連携の中で、災害時の対策を盛り込む。長期の避難場所と避難方法等、地域の方と検討が必要。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>情報公開を第一に、面会時、電話、お便りをもとに、随時、連絡を行っている。ご家族の方も介護の良きキーマンとして参加頂いている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日のバイタルサインの確認、食事量・排泄量の確認。入浴時の身体の観察を行っている。また、異常の発見時は、速やかに報告をしあっており、状況によって対応している。緊急時は救急車の要請を行い。緊急性が不透明な場合、医師に連絡をとり、指示を頂いている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>現在、使用されている投薬内容を表に一覧し、その効果と副作用について記載している。常に目にしやすいよう投薬の保管ボックスの近辺に提示している。用法・用量の変薬がある際、必ず、医師への確認、職員間での連絡を行っている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>食事メニューの記録に食事に必要な栄養素の一覧を記載、その中で繊維質、カリウムのとりやすい食材を紹介しており、購入段階から意識している。便秘がちな方には、特に運動場面の提供や医師への相談を行っている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>入れ歯の洗浄や歯磨きの促し等、就寝前を中心に行っている。しかし、洗浄やブラッシングを断られることもあり、全員が出来ている状態ではない。出来ていない方には食事後の水分の摂取を頂いている。</p>	<p>引き続き、断られる方への呼びかけ、洗浄にあたる場面を強制のない範囲で勤めていく。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事メニューの記録に食事に必要な栄養素の一覧を記載。どの食材がどの栄養素を含んでいるのか理解し、何より多種の食材が摂取できる事を意識している。食事量は、毎食後確認。水分量についても確認し、少ない方へのアプローチを進めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアル作成済み、まずは予防に関する事を徹底しており、消毒・衛生管理・早期発見に意識している。発生後の手順・マニュアルにおいては、全ての職員が熟知していないが、即座に対応出来るよう各ユニットに感染症対策委員会の委員があり、管理者をはじめとする者が指示できるように出来ている。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日々の管理として、チェック表があり、消毒し確認している。冷蔵庫内の消毒はもちろんの事、賞味期限の確認、保存においても連絡ボードに記載し、食材管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りには、プランターや植木を置き、景観の整備を行っている。建物の造りも近隣の住居に溶け込めるよう中学校をリホームし使用している。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中学校のリフォームという事もあり、太陽の光が入りやすい造りとなっている。防音・寒さ対策として二重窓になっている箇所あり。中庭には、季節感のある花や植物がある。共有されるスペースには、季節的な提示を行っている。日々、清掃を行い心地よい空間づくりを行ったり、消臭として炭を設置している。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りでゆっくり出来るよう人通りの少ないところにソファを置き、ご利用頂いている。リビングの食席は、職員側で固定する事なく、個々の思いにお任せしており、気の合ったメンバーで集まられたり、あえて離れられたりされている。心境に合わせ職員がサポートしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで いきたい項 目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		認知症対応における環境の変化の影響を押さえた上で、職員会議にて再度、自立について検討し、必要最小限のバリアフリーや工夫について考える。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・あえて職員と入居者の方という関係を持たず、気軽な隣人として関係を持つようにしている。もちろん尊敬念、その人その人の「こころ」の捉えた形に答え、姿勢の目線、思いの目線を合わせて、お手伝いをさせて頂いている。「こころ」が職場や家と思っておられる方、職員を同僚や息子と思っておられる方もあり、その思いを大切に日々実践している。
- ・プロ意識は、表向きに出すものではなく、秘めるものとして意識している。業務遂行に力を入れたり完璧を求める態度はかえって、生活の場としている入居者の方の環境に影響を及ぼすものであり、入居者の方、認知症の症状を理解したベース、動きを大切にしている。職員内に主婦層が多く、介護職員としてではなく、主婦感を表向きに出して頂いている。その事で生活感を出して頂いている。
- ・職員が生きた辞典になる。日常の表情、個々の価値観、癖、病状、嗜好等、変化や大切にされているものに気付きお手伝いさせて頂いている。マニュアルやサービス計画表等、文面化されたものを頭に入れるだけでは、対応の応用や技術に結びつかない為、職員自身が生きた辞典になる事を意識している。